

式辞（入学式）

春風がこの藤林台に花の香りや鳥のさえずりを運んでくれる、今日の佳き日に、来賓として珠洲市長 泉谷満寿裕様、珠洲市 教育長 吉木充弘様、本校 PTA 会長 葛原秀史様をはじめ、多数の御来賓並びに保護者の皆様の御臨席のもと、令和六年度入学式を挙行できますことは本校職員一同、この上ない喜びでございます。御臨席を賜りました皆様に、厚く御礼申し上げます。

ただ今、入学を許可しました51名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんの入学に至るまでの努力を称えるとともに入学を心から歓迎いたします。

この、飯田高校は、明治四十五年に創立され、大正・昭和・平成そして令和と5つの時代に奥能登の若人の学びの拠点として一万七千人を超える卒業生を数え、本年度、創立百十二年目を迎える伝統ある名門校です。どうぞ、飯高生としての自信と誇りを持って高校生活をスタートしてください。

まず、本校の校章と校訓についてお話しします。校章はこの会場の周囲に張られている幔幕にも描かれており、蛍と雪の結晶を形どったものです。中国の故事である「蛍雪の功」が由来です。明かりを灯す燃料が買えない環境でも学問をあきらめずに、夏は蛍を集めてその光で本を読み、冬は雪明りで学業に励み、功をなしたという言葉です。どのような逆境にも負けずに学びを続ける飯高魂を表しています。今まさに、震災による劣悪な環境に置かれていますが、学ぶ歩みは止めてはいけません。

次に校訓です。この会場正面右上に掲げてありますように、「清慎勤」という三文字です。「清」は「体を鍛え、心身ともに清らかであること」、「慎」は「言動を慎み、礼儀正しいこと」、「勤」は「己を磨き、学業に勤めること」を意味します。「己を磨くために心清らかに慎みを忘れず、体を鍛え、学業に励め」と教えてくれています。

この校訓のもと本校は文武両道を目指し、日々学業に部活動に励んでいます。日本は世界の中でも類を見ないほど平等な国であり、努力さえすればどのような道にも進むことができます。人一倍、自己研鑽を重ねることで自分が納得できる進路決定をすることができます。飯高での三年間で自分を鍛え上げて欲しいと願っています。

さて、人は生まれて以来、大切な事や物から覚えていきます。一番最初に覚えるのがお父さんやお母さんの声、抱き具合、そして顔です。その後は食べ物であったり、親族や自分の家を覚えます。保育園に行くようになると、「明るく・仲良く・元気よく」といった人間性を確立し、小学校では「あいさつ」等の礼儀を知り、人と交わることを教わります。中学校では部活動等

を通して集団生活を学んできました。それでは、高校時代に何を身につければ良いと、新入生の皆さんは思いますか。それは「自立」です。高校時代に自立できるようになることがこの後の長い皆さんの人生に於いて重要になります。今、皆さんの生活は親御さんら家族の愛情はもちろんのこと、その経済力に支えられています。いずれは、その役を皆さんが受け継ぎ、しっかりと家族を支えてくれることを親御さんや御家族は期待しておいでます。もしかしたら、中学校までは御家族に甘えすぎたりわがままを言ったりしていたかもしれませんが、中学校卒業と同時にそれも卒業して下さい。先ほど述べました自己研鑽の具体の一つがこの自立です。

また、高校時代は生涯の友と出会う大切な時期でもあります。その大切な時期を過ごす場として、この飯高を皆さんが選ばれたのは「縁」あつてのことです。生涯の友と出会うのも「縁」です。皆さんにはこの「縁」を大切にしていきたいと思っています。そのためには、「思いやり」と「感謝の気持ち」を持つことが大切です。そうすることで、周囲と良好なコミュニケーションをとることができ、その延長線上に生涯の友と縁を結ぶことができます。どうぞ、困っていたら助け合い、小さな事であっても声に出して「ありがとう」と言うように心がけましょう。そうすることによって、生き生きとした、そして、充実した高校生活を送ることができ、生涯の友ができること確信しています。

最後になりましたが、保護者の皆様におかれましては、お子様の御入学、心よりお慶び申し上げます。本日から保護者の皆様と連携し、我々教職員がお子様の教育に当たり、人間力向上や進路実現に向けて、一生懸命、支え導く所存です。保護者の皆様におかれましても学校運営について御理解・御協力を賜り、ともに、お子様の成長を喜んでいきたいと考えております。どうぞ、よろしく願いいたします。

以上、新入生諸君の充実した高校生活を願って、式辞といたします。

令和六年四月八日

石川県立 飯田 高等学校長

角 秀明